



今を大切に 高齢ろう者の絆を深め、生きがいを語り合おう 仰ぎ見る立山連峰、きときとの越中の地で

第36回全国ろうあ高齢者大会

2024年9月26日(木)～29日(日)

主催:(一財)全日本ろうあ連盟高齢部

主管:(福)富山県聴覚障害者協会

2024年9月28日発行

速報
第9号



講演会①

「手話ドラマの裏で活躍する多くのろう者たち!!」

講師:南 瑠霞氏



手話ドラマの例:「オレンジデイズ」「バベル」、「ラブレター」、「森のアサガオ」、「37歳で医者になった僕」、「花嫁の父」、「聲の形」など

「手話ドラマの裏で活躍する多くのろう者たち」をテーマに南 瑠霞氏から講演いただきました。まず、南氏から「手話を使ったドラマを見たことがある?」との問いかけに参加者から“オレンジデイズ”などの作品名が挙げられ、なんと作成過程の裏話をお話いただきました。また他にも様々なドラマやアニメについてお話しされ、初めて知る情報に参加者たちも「へ〜!!!」と大きなリアクションを取っている様子が見られました。

また“聲の形”は、京都アニメーションで制作されていることから、その後発生した悲痛な事件に大きなショックを受けたとお話しされ、痛ましく悲しい気持ちが参加者にも伝わりました。

最後に南氏は「ろう者が持つ手話。ろう者の生き方は歴史の中の宝物。私たちに人の生き方を教えてくれている」とメッセージを伝えました。きこえなくても、声を出せなくても、言語を生み出せる。その力がある。と、非常に背中を押される思いでした。



講演会②-1

「被爆者家族として 昭和 20 年 8 月 6 日 ヒロシマ」 講師:大西 章雄氏



『平和を願う』をメインテーマとし、大西氏に講演いただきました。広島に落とされた原爆の被害やその後の生活、後遺症など写真を投影しながら当時の状況を説明いただきました。その当時、広島に住んでいた 35 万人のうち半数程度が亡くなり、生き残った中でも放射能が影響し、数ヶ月後に亡くなる方もいるとお話しされました。

また、原爆投下時、大西氏自身の事、母親と姉の状況などについても説明されました。爆風を受けて飛ばされ、同じ町内会の方はみんな亡くなった中で、母親と姉だけが生き残ったそうです。また大西氏の父親は「入市被爆」という、原爆投下から二週間以内に広島市に入ったことによる被曝により様々な病気になることを指すそうですが、当時は世間に理解されておらず周りからの誤解もあり大変な思いをされたそうです。大西氏の姉も被爆後、血液の病気になり、がんを患いました。家から出ることができず、点滴を受けていると現状をも語っていただきました。今では放射能の怖さを多くの人知っているが、当時はその怖さを知らない人が多い状況でした。

最後に大西氏より、憲法 9 条改正の動きを注視すべき。日本のみならず世界中が戦争をせず平和に過ごすことが大切だと強く語っていただきました。

